

でも、叱ることも必要じゃないの？



もちろん、きまりを破るなどいけないことをしたら、叱ることも必要です。



叱った後、どこがいけなかったのか。どうすればいいのかをいっしょに説明をすることが大切です。子どもがその行動を正すことができれば、ほめるチャンス到来です。

ほめようと思っても、ほめるところが・・・



ほめるところが見つからないのは、要求が高すぎるのでは？

大切なのは、「最初から完璧を求めないこと」「今できているところ」や「いつもより少しだけよくなっているところ」も見つけたらほめてみましょう。



伝え上手名人

- ① 「〇〇しようね」とすべきことを伝える。
- ② 「〇〇したら、△△できるよ」と伝える。
- ③ 具体的に伝える。(例:「シャツが出ているよ。ズボンの中に入れようね。」)
- ④ 子どもが聞いていることを確かめてから、すべきことを一つずつ伝える。
- ⑤ できないときは、見本を見せたり、少し手伝ったりする。



ほめ上手名人

- ① 叱る回数を減らし、ほめる回数を増やす。
- ② 登校前や帰宅後に必ず1回以上は、子どもをほめる。
- ③ その場でタイミングよくほめる。
- ④ 子どものがんばりの過程をほめる
- ⑤ 子ども自身の過去と比較してほめる。
- ⑥ 言葉だけでなく、視覚的にほめる



参考文献： ポジティブな行動支援 保護者向けパンフレットWEB版（令和3年11月）
国立大学法人鳴門教育大学・徳島県教育委員会
H29年度版スクールワイドPBSパンフレットWEB版（平成30年2月）
徳島県教育委員会